

平成30年度（平成29年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書

平成30年11月

常陸太田市教育委員会

目 次

I. 教育委員会施策の点検・評価の概要	1
II. 施策別点検・評価	
教育委員会施策の点検・評価書（平成 29 年度事業）	5
（施策名）	
1 地域資源に磨きをかけた観光の振興	5
2 子育てへの支援	6
3 豊かな心の育成	10
4 魅力ある学校づくり	13
5 多様な学習機会の支援	18
6 スポーツ・レクリエーション活動への支援	21
7 結婚・定住の推進	22
8 市民の地域活動への支援	23
9 犯罪のないまちづくり	24
参考 教育委員会の活動状況	25

平成30年度教育委員会施策の点検・評価(平成29年度事業)の概要

1. 趣旨

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、市教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う。

2. 点検・評価の目的

- 教育委員会における主要な施策や事務事業について点検・評価を行い、課題や取組みの方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- 点検・評価の結果について報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし市民に信頼される教育行政を推進する。

3. 点検・評価の対象

- 平成29年度施策を点検・評価する。
 - ・常陸太田市第6次総合計画前期基本計画における教育委員会所管の9施策

4. 点検・評価の方法

- 施策を構成する主な事務事業の評価を基に、施策の目標達成に向けた取組状況と成果の点検・評価を実施する。
- 学識経験者による教育行政評価委員が、施策評価や施策の改善点等について審議する。

(1) 事務事業の評価

- 施策の目標達成のために行った主な事務事業について、その成果や課題を精査検証し評価する。
- 評価については、「a 期待した成果があった」、「b 一定の成果があった」及び「c 見直しや改善が必要」の3段階で評価する。

(2) 施策の総合評価

- 事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を評価する。
- 評価については、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の3段階で評価する。
- 今後の方向性を明確にするため、「課題と今後の方向」を記載する。

(3) 学識経験者の知見の活用

○点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する教育行政評価委員の審議を行う。

○教育行政評価委員（敬称略）※

分野	氏名	所属等
学校教育	岩間 敦子	元学校長
社会教育	豊田 一	社会教育委員会議長
保護者関係	川西 絵美	市女性ネットワーク委員会委員長（水府小）

（参考：平成29年度）

分野	氏名	所属等
学校教育	岩間 敦子	元学校長
社会教育	豊田 一	社会教育委員会議長
保護者関係	田辺 和子	市女性ネットワーク委員会委員長（瑞竜中）

5. 点検・評価結果の公表等

(1) 議会への提出

○点検・評価の結果について報告書を作成し、市議会に提出する。

(2) 市民への公表

○報告書を市ホームページにより公表する。

6. 点検・評価結果の概要（平成30年度（平成29年度対象））

○主な事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の三段階で評価した。

総合計画における教育委員会所管の9施策（平成30年度（H29年度対象））

	基本施策	施策の 総合評価	事 務 事 業	事務事業 評価	施策評価
1	地域資源に磨きかけた観光の振興 (4事業)	B	1 指定文化財整備(文)	b	B
			2 西山荘保存活用(文)	b	B
			3 市内遺跡調査(文)	b	B
			4 文化財保護(文)	b	B
2	子育てへの支援 (4事業)	B	1 市立幼稚園保育料の第2子以降無料化(教)	a	A
			2 図書館子育て支援(図)	b	B
			3 市立幼稚園・小中学校給食費の軽減(給)	a	A
			4 放課後子ども教室(生)	b	B
3	豊かな心の育成 (3事業)	B	1 学校図書整備 (小学校・中学校)(教)	a	A
			2 あたたかな人づくり推進事業(指)	b	B
			3 人権啓発推進(生)	b	B
4	魅力ある学校づくり (7事業)	B	1 3歳児クラスTT配置・特別支援指導員配置(教)	b	B
			2 TT特別配置・特別支援教育指導員配置(指)	b	B
			3 学校統廃合(教)	b	B
			4 活力ある学校づくり推進事業 (小学校・中学校)(指)	b	B
			5 学校給食における地場産物利用促進(給)	b	B

5	多様な学習機 会の支援 (3事業)	B	1 公民館活性化推進(生)	b	B
			2 地域資源活用講座事業 (生)	b	B
			3 公民館整備(生)	b	B
6	スポーツ・レク リエーション 活動への支援 (2事業)	B	1 ラジオ体操普及推進事業 (ス)	b	B
			2 スポーツ施設整備(運動公 園整備事業)(ス)	b	B
7	結婚・定住の推 進 (1事業)	B	1 移住・定住者への奨学資金 返還助成制度(教)	b	B
8	市民の地域活 動への支援 (1事業)	B	1 エコミュージアム活動の 推進(文)	b	B
9	犯罪のないま ちづくり (1事業)	B	1 子供の安全対策強化(教)	b	B

計26事業

7. 施策別点検・評価

○別紙「教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)」による。

8. スケジュール

- 8月 6日 各課等へ「点検・評価書」原案作成を依頼
- ↓
- 8月31日 各課等により「点検・評価書」原案の取りまとめ
- ↓
- 評価委員会提出用「点検・評価書」の作成
- ↓
- 11月 8日 教育行政評価委員会の開催(外部評価)
- ↓
- 「点検・評価に関する報告書」の作成
- ↓
- 11月22日 教育委員会定例会に提出
- ↓
- 12月 3日 市議会定例会に提出

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	地域資源に磨きをかけた観光の振興					担当課	文化課
総合計画における位置づけ	第1章	安心して働くことのできる仕事の間づくり					
	第1項	産業振興と新たな雇用創出による仕事の間づくり					
施策の目標	歴史文化基本構想の策定を進め、文化財とその周辺環境を含めた総合的な文化財保護及び活用施策の充実を図る。						
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者は、国・県・市の補助金等を活用しながら文化財の維持管理に努めているが、多額の費用を要するため、所有者の自己負担額も多い。また、所有者の高齢化により今後管理が十分にできなくなる恐れがある。 ・指定文化財については公開の体制が確立され、地域・大学と協働による公開も行われ、周辺市町村にも波及して浸透しているが、さらなる公開ができる体制を確立する必要がある。 ・埋蔵文化財専門職員が配置されて国庫補助事業の採択を得ているが、今後の調査を進める上ではさらなる人員体制の充実が必要である。 						
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価	
	指定文化財整備	所有者が行う指定文化財の修繕に対し、条例に基づき補助金を交付	阿弥陀堂本堂屋根葺替 正宗寺収蔵庫屋根修理			b	
	西山荘保存活用	西山御殿跡(西山荘)の今後の保存活用方針を定めた計画書を策定	国指定史跡及び名勝西山御殿跡(西山荘)保存活用計画書発刊 H30.3.31			b	
	市内遺跡調査	梵天山古墳群及び周辺史跡の国指定に向けた取組み、及び歴史文化基本構想の策	梵天山古墳群遺跡分布調査(1期)と中野富士山古墳試掘調査(1期)を実施			b	
	文化財保護	歴史と文化を将来に伝えるために、国民共有の財産である文化財の保護を図る。	文化財審議会の開催(3回) 指定文化財の維持管理 指定文化財管理費補助金の交付			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価	
	指定文化財整備	常陸太田市指定文化財等保存整備費補助金交付件数	2	2	4	b	
	市内遺跡調査	国指定文化財数	7	7	7	b	
	文化財保護	指定文化財集中曝涼来場延べ人数	7,003	6,193	3,109	b	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
	○						
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生による展示資料の解説も内容が充実し、来場者からも地域からも好評であった。今後はマンネリ化しないような工夫ある取組や他市との連携を図っていく必要がある。(H29は台風により2日目を中止としたため来場者が半減) ・H29に策定された保存活用計画に基づき、保存と併せて国指定史跡及び名勝としての活用を図っていく必要がある。 ・文化財の計画的な調査及び文化財に関する権限移譲を受けるため、歴史文化基本構想への取組を進める必要がある。また、調査を進めるにあたっては専門知識を持った職員の充実が求められる。 ・国民共有の財産である文化財の保護を図るため、管理者(特に個人)の保全・保護意識の醸成と併せ、保全・保護に必要な資金の補助を条例に基づき行っていく。 						
教育行政評価委員による意見	文化財保護事業(指定文化財集中曝涼)については、県内外からの来場者も多くいると聞いている。地元大学生による展示資料の解説も内容が充実しており好評である。市民にとって文化財を身近に感じられる機会であるし、市民の文化財に対する関心度を図ることができる。引き続き、事業のPRを進められたい。					総合評価	
						B	

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	子育てへの支援		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第1項	安心して子育てのできる環境づくり				
施策の目標	子育て世代への経済的支援により、子育てしやすい環境をつくる。					
現状	幼稚園に通う第2子以降園児の保育料を免除している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	市立幼稚園保育料の第2子以降無料化	幼稚園に通う園児が第2子以降である場合、保育料を無料としている。	134名に対し、保育料の無料化を図り、子育て家庭への経済的支援を行った。			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	減免認定者数(人)	40	43	-	
	幼稚園保育料の第2子以降無料化	減免認定者数(人)	-	-	134	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	平成22年度より第3子無料化、平成25年度から第3子以降園児の給食費を無料化、平成27年度から新たな子ども・子育て支援制度が始まり、保育料が5階層に分かれているが、いずれの階層でも国の施策により第3子無料化、第2子は1/2減額を行っている。さらに市では、第2子以降の保育料は無料としており、子育て世代の経済的負担の軽減を図る施策として有効に機能していると考えられるが、少子化対策としての成果はすぐには表れないため、継続していく必要がある。					
教育行政評価委員による意見	子育て世帯にとって、経済的負担の軽減が図られており、有効な施策といえる。					総合評価
						A

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	子育てへの支援		担当課	図書館		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第1項	安心して子育てのできる環境づくり				
施策の目標	親子が絵本を通して心触れ合うひとときをもたせることや、あかちゃん連れでも気兼ねなく図書館を利用できる環境をつくり幼少期から本に親しむ習慣を持たせることにより、子供達が健やかに成長できるよう子育て支援を行う。					
現状	<p>○ブックスタート 健康づくり推進課が実施する乳児相談(前期)会場に出向き、相談終了後にブックスタートパック(絵本2冊、図書館利用案内等)をプレゼントし、図書館ボランティアが対象者に絵本の読み聞かせとアドバイスを行う。</p> <p>○あかちゃんタイム 一般の図書館利用者の協力を得て、保護者があかちゃんの泣き声などに気兼ねなく図書館を利用できる時間帯を設けている。(毎月第1・3木曜日午前10時30分～正午)</p> <p>○ママ・プレママサロン あかちゃんタイムにあわせ、図書館ボランティアによる読み聞かせや妊娠・出産・育児等の本の紹介、ママさんの情報交換の場として実施する。</p>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	図書館子育て支援(ブックスタート、あかちゃんタイム、ママ・プレママサロン)	ブックスタートパック(絵本2冊、図書館利用案内等)をプレゼントし、図書館ボランティアが対象者に絵本の読み聞かせとアドバイスを行う。	絵本を通して親子がこころふれあうひとときをもつきっかけをつくることのできた。 平成29年度対象者…247名 平成29年度受領者…235名			b
		保護者があかちゃんの泣き声などに気兼ねなく図書館を利用できる時間帯を設けている。(毎月第1・3木曜日午前10時30分～正午)、あわせて図書館ボランティアによる読み聞かせや妊娠・出産・育児等の本の紹介、ママさんの情報交換の場として実施する。	保護者があかちゃんを連れて図書館やサロンを利用することができた。 平成29年度参加者数…387名			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	ブックスタート	ブックスタートパック贈呈率(%)	97.4	95.7	95.1	b
	あかちゃんタイム ママ・プレママサロン	あかちゃんタイム、ママ・プレママサロン実施回数(回)	24	24	23	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	平成22年度から実施しているが、ブックスタート事業のPRに努め、対象赤ちゃんに兄弟姉妹と同じ絵本がプレゼントされないよう選書に配慮し、贈呈率の向上を図る。また、おはなし会やその他の図書館行事にも足を運んでもらい、幼少の早い時期から本に親しめるよう継続していく。家族みんなが本に興味を持ち、読書環境をつくることによって図書の利用向上を図られるよう推進していく。					
教育行政評価委員による意見	一般的に、図書館は静かな環境という概念がある中、子育て支援の視点から赤ちゃんや幼児などの利用者に利用しやすい環境づくりをしていることが新しい発想となっている。ママ・プレママサロンが安定した実施回数であるが、いろいろなニーズ・興味対象に応じられるよう、事業内容が固定化されないよう工夫を講じられたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	子育てへの支援		担当課	学校給食センター		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第1項	安心して子育てのできる環境づくり				
施策の目標	子育て世代に対する経済的支援により、子育てしやすい環境をつくる。					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園の園児及び小学校の児童・中学校の生徒に対する給食費を1/2に減額をしている。 ・市立幼稚園の給食費の第3子以降無料化をしている。 					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	市立幼稚園・小中学校給食費の軽減	市立幼稚園の園児及び小学校の児童・中学校の生徒に対する給食費を1/2に減額及び市立幼稚園の給食費の第3子以降無料化。	市立幼稚園の園児及び小学校の児童・中学校の生徒に対する給食費を1/2に減額及び市立幼稚園の給食費の第3子以降無料化を図り、子育て家庭への経済的支援を行った。			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	市立幼稚園・小中学校給食費の軽減	学校給食費減額対象者数(人)	0	3,544	3,357	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・給食費を1/2に減額及び無料化して時間が経過すると、どうしても「当然のことである」と意識され、感謝の気持ちが薄らいでしまうことが懸念されるので、機会あるごとに保護者に向けて軽減化の趣旨を伝える必要がある。 ・引き続き、市立幼稚園の園児及び小学校の児童・中学校の生徒に対する給食費を1/2に減額及び市立幼稚園の給食費の第3子以降無料化を行う。 					
教育行政評価委員による意見	給食費の軽減や無料化については、公費負担(軽減や無償化)が当たり前の考え方になってしまう恐れもある。市(税)の負担があって効果的に運用され事業が行われていることなど、適宜、制度の周知を図られたい。					総合評価
						A

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	子育てへの支援		担当課	生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第1項	安心して子育てのできる環境づくり				
施策の目標	・放課後の小学校を活動場所として、主に小学校低学年の児童が地域住民のボランティアと一緒に勉強やスポーツ、文化活動等を行うことにより、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。					
現状	・核家族化や少子化、高度情報化など子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、子育てへの不安が社会問題となっている。安心して子育てができる環境や子育て家庭へのよりきめ細やかな支援など、少子化・人口減少対策の一環として、地域ぐるみの子育て支援の一層の充実を図る必要がある。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	放課後子ども教室	・放課後の小学生の活動場所として、ボランティアが子どもたちの安全を見守りながら一緒に活動し、子供たちが安心して自由に「学び」「体験」「交流」「遊び」ができる環境をつくる。	・市内全小学校区(13小学校区)で放課後子ども教室を実施し、うち6小学校区で週1回、7小学校区で週2回実施した。実施日数676日、参加児童数373人、ボランティア登録人数は165人であった。 ・市内の全小学校区で実施し、対象児童の89.4%が参加した。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	放課後子ども教室	放課後子ども教室への参加率(%) (参加人数/対象人数)	95	93	89	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・放課後子ども教室のボランティアの人数に偏りがある。今後ともボランティアの確保を図り、放課後の安心・安全な居場所づくりとして、本事業の充実を図っていく。					
教育行政評価委員による意見	ボランティアの高齢化や小規模校におけるボランティア人数確保などが課題になっていると思われる。放課後の子どもたちの安心安全な居場所づくりに向け、放課後児童クラブ(保健福祉部事業)との連携を図るなど、事業の充実を進められたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	豊かな心の育成		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	学校図書館の充実及び読書活動を推進することにより、子どもの想像力、表現力を身につけさせ、豊かな人間性の育成を図る。					
現状	学校規模、整備状況に応じた図書購入費の配分により、図書標準冊数を全小中学校に整備している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	学校図書整備(小学校・中学校)	文部科学省の設定している学校図書館の図書標準冊数(学級数により異なる)を達成するため、計画的に図書を購入している。	図書標準冊数は、平成24年度より基準を満たしている。 図書購入費の継続的な確保により、経年劣化した図書の廃棄や新規書架の購入など、定期的な入替えが実現できている。			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	学校図書整備(小学校・中学校)	学校図書館図書標準の達成校	20	20	20	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	学校規模及び整理状況に応じた図書購入費を配分し、平成21年度から小学校に学校図書館司書を順次配置し、平成24年度から小学校全校に配置している。今後は、図書の検索や貸出、管理のデータベース化などにより、学校図書館管理システムの充実を行い、利用者数の拡充につなげる必要がある。					
教育行政評価委員による意見	全ての学校において学校図書館図書標準数を満たしているため、図書環境の整備が推進されている。この整備された環境をもとに、図書館図書の活用率を高め、さらなる読書活動の推進につなげられたい。					総合評価
						A

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	各学校の人権教育や、道徳、特別活動、生徒指導の充実を支援することによって、いじめや不登校等を未然防止、早期発見及び早期解決を図るとともに、児童生徒の内面的な実態や保護者等からの情報により積極的に児童生徒を支援し、自己有用感を高め、自他の生命を大切に、やさしい心をもってたくましく生きる児童生徒を育成する。					
現状	・全小中学校で小学4年生から中学3年生までの全児童生徒に年2回のQ-U(よりよい学校生活と友達作りのためのアンケート)を実施するとともに、分析や活用について教員の研修を実施している。各学校や学級においては、児童生徒一人一人の実態を捉えた生徒指導や学級経営を行うなど、積極的に事業推進が図られている。また、地域や児童生徒の実態を踏まえた道徳、特別活動等の取組が効果的に位置づけられている。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	あたたかな人づくり推進事業	規範意識の醸成と安心して学べる学校、学級づくりの推進	各学校が自校の実態把握と分析に努め、全職員による問題行動の未然防止を推進する。			b
		学校全体で取り組む道徳教育、人権教育の充実	学習指導や学級経営の基盤となる人権教育や道徳の推進により、豊かな心の育成に努めている。			
		親子ともみがき活動の展開による家庭教育の充実	親子ともみがき活動を家庭・地域との連携による教育効果の向上の機会と捉え、積極的に推進している。			
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	あたたかな人づくり推進事業	いじめ解消率	99%	98%	93%	b
		全国学力学習状況調査アンケート「人が困っているときは、進んで助けていますか」児童生徒割合 *平成27年度は「人の気持ちがわかる人間になりたい」	96%	89%	90%	
		全国学力学習状況調査アンケート「今住んでいる地域の行事に参加していますか」児童生徒割合	57%	61%	53%	
		「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合	94%	93%	93%	
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	豊かな心の育成は、児童生徒一人一人の自己有用感を高めることが重要であり、「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合が93%であるということから、取組の成果が見られる。児童生徒の実態を詳細に分析し、特別の教科道徳や人権教育を推し進めるなどして、自己有用感を高めるとともに相手のよさや気持ちが認められるように、児童生徒一人一人に合った適切な指導を実践していくことが必要である。					
教育行政評価委員による意見	いじめの防止については、早期発見・早期対応につきる。茨城県ではいじめの認知件数が増えているとの報道があった。認知件数が少ないことはいじめの未然防止に努力していることにもなるが、認知件数の数に関わらず一つ一つの事例に対し細やかに対応されたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	・市民一人一人がその発達段階に応じ、学校、地域、家庭、職域その他の様々な場を通じて、人権尊重の理念に対する理解を深めこれを体得することができるよう学習機会の場を提供する。					
現状	・教育委員会各関係課、市長部局関係課及び関係機関・団体等と連携して「ハートフルフェスタひたちおた」を実施し、参加者並びに市民の人権意識について理解を求めているが、市民一人一人が正しい知識を持つには継続した啓発事業が必要である。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	人権啓発推進	・人権について関心を高めるために、毎年人権週間にあわせて「ハートフルフェスタひたちおた」を開催している。	・人権を担当する教育委員会各関係課、市長部局関係課及び関係機関・団体等との連携のもと、人権教育・啓発イベントや各キャンペーンでの啓発活動、人権教育研修会への参加等により、人権教育・啓発事業を推進することができた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	人権啓発推進	人権啓発事業への参加人数(人)	250	300	210	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・人権意識が希薄になりつつあるが、庁内各課との連携により、様々な啓発手法を用いて、市民一人一人の人権意識の高揚を図る必要がある。					
教育行政評価委員による意見	人権啓発については、学校教育においても推進しているが、地域や家庭、職場などを巻き込み、市民全体の人権意識の高揚について図られたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	魅力ある学校づくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	はじめて親から離れ、集団生活をする3歳児に細やかな援助をし、幼稚園生活になれる手助けをしていく。これにより、担任教諭はクラス全体を指導し、TT講師は個々に関わり指導をすることができ、よりきめ細かな対応を図る。また、園児一人一人の発達や障がいに応じた支援の充実が重要であることから、特別支援指導員を配置することで特別支援教育が必要な園児への適切な支援を行う。					
現状	3歳児クラスTTについては、3歳児11名につきTT講師1名を配置している(太田進徳幼2名、幸久幼1名、のぞみ幼2名、久米幼1名、金郷幼1名)。特別支援指導員については、各幼稚園からの要望に対し、園児の行動面・情緒面等の実態調査を行い、配置している(太田進徳幼4名、幸久幼4名、世矢幼2名、のぞみ幼4名、久米幼2名、水府幼1)。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	3歳児クラスTT配置事業	3歳児11名につきTT講師を1名配置している。担任教諭の補助として園児を指導している。	園児と教諭、保護者との関係構築が図られ、また、園児は集団生活での適応性が確保され、教育上の効果が期待できた。			b
	市立幼稚園特別支援指導員配置事業	特別支援教育を要する児童について、園長から配置要望を受け、関係機関との協議のうえ配置している。	園児と教諭、保護者との関係構築が図られ、また、園児は集団生活での適応性が確保され、教育上の効果が期待できた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	3歳児クラスTT配置事業	3歳児TT講師配置人数	8	7	7	b
	市立幼稚園特別支援指導員配置事業	特別支援指導員配置人数	14	15	17	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	初めて幼稚園に入園する園児にとって、個々の面倒を見てもらえるTT講師が配置されることによって、安定した園生活ができています。園児の安全・安心確保のため、教諭と保護者の良好な関係構築のためにも有効的な事業である。園児の生活の様子(生活習慣・行動・遊び・運動・対人コミュニケーション等)を把握し、必要に応じ特別支援指導員を配置していくとともに、園児の発達段階に応じた対応もさまざまであることから、特別支援支援員等の質の向上を図るための研修の機会を積極的に確保していく必要がある。					
教育行政評価委員による意見	子どもたち一人一人にきめ細かな対応をしていくために大切な事業である。人材確保が困難であるとのことだが、子どもの発達面・行動や性格面の特徴に応じ、きめ細かに対応されたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	学校や児童生徒一人一人のニーズに応じた支援を行い、「夢育」を推進するために必要な「生きる力」の育成を図る。					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の小学校8校に、それぞれ1名(1校は2名)ずつTT非常勤講師を配置し、チームティーチングによる学習指導方法を取り入れ、各学校においてきめ細かな指導を行っている。 ・特別支援教育指導員は、19名を11小学校と教育支援センターに配置し、特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行っている。 					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	TT特別配置	各学校で課題が見られる教科や学年に配置し、効果的に活用する。	複数の指導者による支援は、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな対応が可能となり、学習意欲の向上に効果が大きい。			b
	特別支援教育指導員配置	学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行う。	対象児童生徒に対する適切な個別支援が進められており、学習機会の保障及び学校生活における安全確保ができています。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	TT特別配置	TT配置学校数	9	9	9	b
	特別支援教育指導員配置	特別支援教育指導員の配置人数	19	19	19	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任が一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導のために、非常勤講師との連携を図りながらチームティーチングの指導法を取り入れることは、学力向上に有効である。「夢育」の推進が図れるよう、より効果的な非常勤講師との連携について指導・助言していく。 ・きめ細かな支援を要する児童は、ゆるやかな増加傾向がみられる。特別支援教育指導員については、各学校の実態に合わせて限られた時間を有効活用して、児童生徒が安心して学べる環境づくりに効果を上げている。 					
教育行政評価委員による意見	学級担任とTT非常勤講師の勤務の都合上、連携を密にする時間の確保が課題であると考えられるが、工夫を講じながら学習効果の向上と学力の向上を図りたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	魅力ある学校づくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	小中学校の適正化を図り、児童生徒の教育環境を改善するため、平成28年7月に策定した学校施設整備計画に基づき、学校統合を推進する。					
現状	<p>・児童生徒、園児の数は、少子化の影響により減少し、複式学級や学級数の減少が進み、小学校や幼稚園においてこれらをできるだけ解消するため、統廃合の協議を進めてきた。学校施設整備の基本的な考え方として、学校施設整備計画において、小中学校については、①1学級20人から30人程度を適正規模とする、②複式学級はできるだけ避け、複式学級が2学級になる前に解消措置を講じる、③小中一貫教育の導入を進めていく、以上3点を挙げている。</p> <p>・幼稚園については、混合保育を実施している園、老朽化が進んでいる園は、統合や閉園、認定こども園への移行の検討を進めていく、としている。</p>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	学校統廃合	平成30年度から複式学級が生じる山田小学校と、同年度から複式学級が2学級生じることとなる水府小学校の統合、中学校との小中一貫教育を進める。	保護者を含めた統合調整会議や保護者全体説明会、地域住民説明会等において、諸事項に係る調整を図り、学校統合、教育環境の充実を進めることができた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	学校統廃合	複式学級のある小学校数	1	1	2	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<p>・平成28年7月に策定した学校施設整備計画における早期的統廃合あるいは中長期的統廃合の実施計画を基に統廃合を進めていくが、本計画では、早期的統廃合の一つに急激な児童数の減少が考えられる学校として西小沢小学校を挙げ、平成32年度を統廃合の計画年度と定めていたところ、当時の想定とは別に、入学時の児童数が増加し、複式学級が2学級になる時期が先にずれたこともあり、同小学校区の統廃合に関しては、保護者や地域住民に対する懇談会・説明会が未着手のままである。</p> <p>・本計画が策定後2年が経過することや、学区内の子ども的人数も変動していることであり、学区ごとの児童数の推移を毎年検証することや、適宜、保護者等へアンケート調査を実施するなどの現状把握を行うとともに、早急に想定年次を加えた計画の見直しを図っていくことが必要である。その後、保護者を中心に合意形成に向けた取組を進めていく必要がある。</p>					
教育行政評価委員による意見	学校統廃合については、新たに策定した学校施設整備計画(改訂版)の考えのもと、子どもたちの教育環境を第一に捉え、保護者や地域住民に対し丁寧な意見調整を進められたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名		魅力ある学校づくり			担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり						
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり						
施策の目標	各学校が、学校評価、県学力診断のためのテスト、全国学力・学習状況調査、体力テスト等の分析と改善策及び生徒指導上の実態に基づいた課題解決を目指したり、地域の特性を生かした教育活動を取り入れたりしながら、特色ある学校づくりを推進することにより、児童生徒一人一人の「夢育」を推進する。							
現状	・各学校が自校のよさや課題を分析し、児童生徒の力を高めるための適切な事業計画を作成した上で実施している。事業計画は、学校や地域の特徴・よさに基づき、自校の児童生徒の伸ばしたい力を明確にした上で作成している。また、ヒアリングにおいては、目的の明確化と活動内容の妥当性も検討の上で実施している。							
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価		
	活力ある学校づくり推進事業	学校としての特色と学校の教育目標の具現化を明確に打ち出した教育活動を充実させる。	学校の主体的な教育実践による学校の活性化（地域の教育力の活用、市学校教育指針の具現化、効果的な学校評価の実践等） 児童生徒一人一人の実態や地域の実態に応じた教育効果の向上（学力向上、道徳的実践力の育成、家庭学習の習慣化、体力の増進、郷土を愛する心）			b		
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価		
	活力ある学校づくり推進事業	体力テスト総合評価(A+B)の割合〔小学校〕	66%	66%	68%	b		
		体力テスト総合評価(A+B)の割合〔中学校〕	60%	60%	65%			
		活力ある学校づくりの学校関係者評価(4段階)	3.7	3.6	3.9			
		「授業がわかる」と答える児童生徒の割合	92%	94%	94%			
		「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合	94%	93%	93%			
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった			C 見直しや改善が必要		
			○					
課題と今後の方向	本事業の趣旨が浸透し、各学校とも自校の強みや弱みを明確にした上で、地域や児童生徒の実態を踏まえた体験活動や学力向上を目指した日常的な取組、外部講師の招聘等が計画的に位置づけられており、積極的な事業推進が図られている。また、自校の特色を生かした教育活動を展開することに意欲的であり、郷土愛を育む活動にも積極的に取り組んでいる。しかしながら、組織としての共通実践事項が共有化されていないことや事業内容のマンネリ化といった課題も見られる。							
教育行政評価委員による意見	成果を示す指標を見る限り、それぞれの事業において高い評価となっており、質の高い学校教育が行われている。各学校のホームページを見ても、教育目標や学校経営目標が明確に打ち出されていることを感じている。活力ある学校づくりについては、前例踏襲型に偏ることのないよう、新感覚での改善・創造を図られたい。また、「学校が楽しい」と答える割合が93%となっているが、残りの7%にも着目し、不登校などの生徒指導上の課題に発展することも懸念されるので、きめ細かに対応されたい。						総合評価	
							B	

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	学校給食センター		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第2項	郷土を愛し未来を拓くひとづくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食において、地元の農産物などへの理解を深めるとともに、安心・安全な給食を提供する。 ・給食献立に地場産物を活用し、食育の推進を図る。 					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産コシヒカリ米及び地元産野菜等の導入により、地産地消に取り組んでいる。 ・米粉パンの導入により、地元産米コシヒカリの消費拡大と安心した給食を提供している。 ・地元食材にこだわった特別メニューを提供する「地産地消の日」を設け、児童生徒の地域への理解や関心を高めている。 					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	学校給食における地場産物利用促進	地元産米コシヒカリ及び地元産の野菜等を給食食材として使用する。 ・米粉パン月2回 ・米飯給食の促進	・地場産物のコシヒカリ米や地元産野菜等の食材導入により、子どもたちが地域との愛着や関心を高め、安全安心な学校給食に活かしている。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	学校給食における地場産物利用促進	地元食材の自給率(青果物等)(%)	51	53	52	b
		地産地消の日(日)	11	11	11	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生産体制の確立及び整備に取り組んでいるが、露地物野菜のため時期が限られており食材の種類や納入量の安定した確保が難しい。 ・JA常陸及び地元産食材取扱業者との連携を図り、定期的な地元産食材調達を行う。また、現状の食材以外にも地元産の利用できる食材があれば積極的に使用する。 ・地元食材にこだわった特別メニューを提供する「地産地消の日」の回数を増やし、児童生徒の地域への理解や関心を高めていく。 					
教育行政評価委員による意見	子どもたちの地元への愛着や安全安心の視点から、引き続き、学校給食における地産地消の提供を進められたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援		担当課	生涯学習課・生涯学習センター		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第3項	夢と生きがいをもって活躍するひとづくり				
施策の目標	入力願います。					
現状	地域の資源を活用した講座として歴史講座、自然講座や常陸太田市探検隊講座等を開催しており、特に人気の高い講座は複数回に分けて開催するなど柔軟に開催している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	地域資源活用講座事業	・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等を開催し、地域を知る学習機会の充実に努めている。	・4地区の学習センターで、12の講座を開催した。受講者数は596人で、昨年(450人)より146人増加した。「ふるさとの歩みを学ぶ歴史講座」の受講者数が最も多かった。地域を知る学習機会の提供となった。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	地域資源活用講座事業	参加者数(人)	494	450	596	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・地域の資源等を活用して講座を開催しているが、今まで蓄積された資料等を編集して、学習・相談体制の充実に生かしたい。					
教育行政評価委員による意見	本市は歴史や自然など地域資源が豊富にある。郷土の素晴らしさを知る学習機会を提供し、地域資源活用の推進を図りたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援		担当課	生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第3項	夢と生きがいをもって活躍するひとづくり				
施策の目標	・公民館は、地域における社会教育・生涯学習の拠点として重要な役割を担っているが、一部の施設においては、建物の老朽化により、不便をきたしているところがある。今後、社会教育、生涯学習の充実発展を図るために、公共施設等総合管理計画に基づき、継続的に公民館機能の維持強化を推進する必要がある。					
現状	・経年劣化等に対する修繕を主に対応しているが、危険性、緊急性に基づく優先順位を考慮したうえで整備している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公民館整備	・公民館の利便性の向上を図るため、優先順位を決定して計画的な施設整備を行う。	・施設・設備を整備することにより、地域における社会教育・生涯教育の拠点としての公民館の気機能向上が図られた。 ・誉田公民館事務所棟増築工事 ・公民館入口看板製作業務 (西小沢・世矢公民館)			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	公民館整備	公民館整備事業件数(件)	4	3	1	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・公民館は地域コミュニティの拠点施設であり、常に良好な状態にしておかなければならない。地区公民館との十分な連絡調整のもと中長期的な計画を立て、公民館施設の整備、改修に努める。					
教育行政評価委員による意見	社会教育、生涯学習の充実発展を図るため、計画的に公民館機能の維持強化を推進されたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援		担当課	生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第3項	夢と生きがいをもって活躍するひとづくり				
施策の目標	・市民のニーズやまちづくりと連携した学習内容や機会の充実を図る。					
現状	・地域における社会教育・生涯学習の拠点として設置された公民館において、市民の教養の向上や生活文化の振興を図ることができるように、各分野にわたる公民館活動の活性化を推進しているが、各地区の人口や就労状況等の違いにより公民館の活動内容に大きな開きがあり、地域の特性を生かした事業を展開していくことが課題である。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公民館地域活性化推進	・地区公民館に活動の原資となる助成金を交付するとともに、公民館職員の研修や講演会を実施し、各分野バランスのとれた一般教養・家庭教育、健康、女性、青少年、高齢者、スポレク・コミュニティ、趣味の7つの分野に分けた学級・講座等を開催する。	・市民のニーズを的確にとらえたバランスのとれた事業、これまでの自己欲求を満たすだけの事業ではなく、地域コミュニティの振興やネットワークの強化を図り、「人づくり」「まちづくり」に資するため、市内15の公民館において、248種の教室、講座を運営し、開催延回数1,708回、32,671人の参加者があった。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	公民館地域活性化推進	公民館事業参加者数(人)	41,349	29,857	32,671	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・公民館活動全体のさらなる活性化とともに活動レベルの平準化を図ることが課題である。公民館職員を対象とした研修会を行い個々の資質の向上を図るとともに、地域住民のニーズを的確にとらえた学級、講座等の企画・運営により事業レベルの底上げを行なっていく。					
教育行政評価委員による意見	地区によっては、公民館事業(教育委員会)から市民コミュニティ事業(市長部局)に移行したが、互いの活動が活性化されるよう、関係部局間の連携を図りたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動への支援		担当課	スポーツ振興課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第3項	夢と生きがいをもって活躍するひとづくり				
施策の目標	子どもから高齢者や障害者まで、誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しくスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備を進める。					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進む中で、市民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう各種教室や大会を開催するとともに、こうした活動に適切な指導・助言ができる指導者の養成・確保に努めている。 ・運動習慣のきっかけづくりとしてチャレンジデー、市民健康スポーツデー、体力測定、ラジオ体操に取り組み、スポーツ推進委員協議会並びに体育協会等と連携を図りながら、スポーツ実施率の向上と市民の健康づくりを推進している。 ・体育施設については、親水広場等を整備し市民に親しまれる施設となっているが、一方では施設全体で老朽化が進んでおり、今後、計画的な修繕・改修が必要である。また、マナーの悪い利用者が増えており対応に苦慮している。 					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	ラジオ体操普及推進事業	スポーツ推進委員協議会と連携を図り、教室開催等による普及推進及びラジオ体操グループ育成に向けた取り組みを行なう。	ラジオ体操に取り組む団体やグループが増えてきた。また、定期的にラジオ体操に取り組む団体、グループが出来てきた。 ・教室開催回数(64) ・ラジオ体操会組織数(5)			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	ラジオ体操普及推進事業	ラジオ体操会(グループ)組織数(団体)	0	0	5	b
施策の総合評価	スポーツ施設整備(運動公園整備事業)	利用者数(人)	415,080	378,430	340,165	b
	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と高齢化が進む中において、健康でいきいきと市民が生活できる環境を進めるために、市民がそれぞれの年齢や体力に応じてスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し、楽しみながら健康づくりができる各種事業を推進する。 ・スポーツを通じた市民の健康づくりに資するため、ラジオ体操の普及推進を図る。 ・子どもたちのスポーツ環境の充実を図るため、ゴールデンエイジといわれるジュニア世代(3歳から小学校6年生)を対象とした事業の充実を図る。 ・老朽化した施設については、施設整備計画を策定し、緊急性の高いものから計画的に改修する。 ・民間の経営で培われた経営手法を活かしてスポーツ施設の管理運営を進めるため、基礎資料を作成する。 					
教育行政評価委員による意見	ラジオ体操ができてから90周年を迎えた。引き続き、スポーツを通じた市民の健康づくりを推進されたい。スポーツ施設の整備については、施設整備計画の策定に基づき、計画的に改修し、環境整備に努められたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	結婚・定住の推進		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きる人づくり				
	第5項	地域の特性を活かしたコミュニティづくり				
施策の目標	奨学金を利用している大学生が奨学金を返還する際に、返還額の全部あるいは一部を助成することにより、大学卒業者の市内定住及びUターンの促進を図る。					
現状	・常陸太田市奨学資金貸与条例に基づき奨学資金の貸与を受け、大学(短期大学・専修学校の専門課程を含む)を卒業した者のうち、市内在住者で奨学金を返還した者を対象に、当該年度に返還した奨学資金の全額あるいは1/2の額を助成し、若い世代の移住定住の促進を図っている。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	移住・定住者への奨学資金返還助成制度	助成対象者に当該年度に返還した奨学資金の全額、あるいは1/2以内の額を助成する。	奨学生のうち市内定住者やUターン者にとっては、負担の軽減につながり、有効な施策に結び付いている。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	移住・定住者への奨学資金返還助成制度	当該制度を利用する新規転入者数	-	0	1	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生のうち市内定住者及びUターン者にとっては経済的負担の軽減となり有効な施策に結び付いている。 ・対象者は市内定住することで、将来にわたり本市への税収も見込まれるため、有効な定住促進施策に結び付いているといえる。 ・一方で、奨学生のうち、県外に進学した者のUターン促進については今のところ大きな実績がない。 ・チラシや大学窓口を活用した本制度の周知とともに、本市及び本市近隣における安定した雇用環境の充実も課題といえる。 					
教育行政評価委員による意見	本市に限った問題ではなく、商業施設など新規事業所の参入等により雇用が伸びてこない、地方の移住・定住(人口規模の維持)はなかなか厳しい実態もあると思われる。その中で、本事業は市内定住者やUターン者にとっては負担軽減となり有効な施策となっているので、安定した雇用創出を目指したまちづくりの推進とともに本事業の充実を図られたい。					総合評価
						B

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

施策名	市民の地域活動への支援		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第2章	夢を育み健やかに生きるひとづくり				
	第5項	地域の特性を生かしたコミュニティーづくり				
施策の目標	社会構造の変化や個人意識の多様化に伴い、地域コミュニティの衰退や伝統文化等の風化が危惧されているため、地域がエコミュージアム活動に取り組むことにより、市民の自律性が喚起され、地域の良さや誇りと愛着を再認識し、地域の人や資源を活かした地域活動を推進し、次世代に引き継ぐことを目的とする。					
現状	エコミュージアム活動については、「わがまち地元学事業」への取り組みを基本スタイルとし、地域の様々な資源を再認識し、暮らしや地域を見つめなおし、地域への愛情と誇りを持てる活力ある地域づくりを地域住民が主体となり活動が行えるように支援を行っている。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	エコミュージアム活動の推進	【①地域への普及啓発】 地域訪問や説明会、市広報紙等によるエコミュージアム活動の啓発を行い、取り組み地区の拡大を図る。	町会長等への訪問や地域の会議等、様々な機会での普及活動を行った。 また、広報紙やホームページ、市役所ロビー等でエコミュージアム活動を情報発信し、啓発活動を行った。			b
		【②地元学事業の取組支援】 自分たちの住んでいる地域にある自然や歴史、文化資源等を確認し、地域の魅力を再認識する「わがまち地元学事業」への取組を支援する。	地域内を住民同士が探索し、地域の良さを再認識するとともに、地域の将来像を話し合うことにより、地域への愛着意識の向上と住民同士の交流が図られた。			
		【③整備活動支援】 発見した地域資源を保全、活用するための整備活動を支援する。	地域資源の解説・誘導板やそれらを紹介する総合案内板や案内マップを整備することにより、来訪者への利便性の向上が図られた。			
【④交流事業活動支援】 整備された地域資源を活用した、地域が独自で取り組む交流事業等を推進、支援する。		地域主体の交流活動が継続的に行われるとともに、地区外参加者やボランティア等との交流が図られ、地域活動の活性化につながった。				
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	エコミュージアム活動の推進	「わがまち地元学事業」実施地区数	22	24	28	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・エコミュージアム活動の基本である「わがまち地元学事業」の取り組み地区の拡大に向けて、地域訪問や説明会による計画的、継続的な推進を行う。 ・地元学実施地区については、次のステップとして、地域資源の整備やそれらを活用した交流活動への取り組みが図られるよう、地域訪問や説明会による推進を行うとともに、交流活動や地域独自活動を行っている地域については、今後も継続して地域主体で取り組めるように側面的な支援を実施する。 ・エコミュージアム活動の推進については、職員による地域訪問や説明会を基本とし、併せて、広報紙やホームページを活用した取り組みの紹介や、エコミュージアム活動員による普及啓発活動を推進し、取り組み地区の拡大を目指す。 ・活動が停滞している地域に対し、活動再開に向けた働きかけを行う。 					
教育行政評価委員による意見	エコミュージアム活動の推進について、成果を示す指標「わがまち地元学事業」実施地区数(実施町会数)が年々増加している。このような活動は、人が集ると新しい発見につながることもある。ついでには、本事業に限らず別な市の施策や事業の推進に発展することもあるので、本事業の特色ある活動により、市全体の活性化を図りたい。					総合評価
	B					

教育委員会施策の点検・評価書(平成29年度事業)

基本施策名	犯罪のないまちづくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第3章	暮らしやすく楽しむことのできるまちづくり				
	第1項	安全・安心なまちづくり				
施策の目標	「地域子ども安全ボランティア」など、地域住民の協力を得ながら登下校時の子どもたちを犯罪や事故等から守る。					
現状	子どもたちの安全確保のため、地域子ども安全ボランティアとの連携を高め、地域ぐるみの防犯活動を推進している。 通学路の危険箇所の報告を学校から受け、安全点検を行い、道路関係組織や警察署などの関係機関を交えた協議会を行い、通学路の危険箇所の把握・情報共有・改善への検討を行っている。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	子どもの安全対策強化	登下校時の児童生徒の安全を確保するため、地域子ども安全ボランティアの登録推進や通学路安全点検の実施	地域子ども安全ボランティアの登下校の見守りやあいさつ・声掛け運動、通学路の危険箇所改善により、子どもの安全確保が図られた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H27	H28	H29	評価
	子どもの安全対策強化	地域子ども安全ボランティア会員数(人)	768	815	822	b
		子どもたちが巻き込まれた犯罪件数	0	0	0	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	地域子ども安全ボランティア会員数は、微増状態にあるものの、高齢による退会者等の整理等が行われておらず、実態を把握する必要がある。これにより、地区ごとの会員数の状況なども踏まえ、必要性の高い地区へは重点的な新規会員の登録をお願いするなど、段階を経て作業を行う必要がある。					
教育行政評価委員による意見	安全ボランティア会員の高齢化や統合により徒歩通学からバス通学に変わる学校もある中、ボランティア活動も難しくなっている。地域ごとに活動に温度差が生じることも否めないが、学校通学区のそれぞれの実情に応じ、登下校時の見守り体制が構築されるようボランティア活動の充実を図りたい。					総合評価
						B

参考 教育委員会の活動状況

1 教育委員会教育長・委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、市長が市議会の同意を得て任命した教育長と4名の委員により構成されている。

常陸太田市教育委員会委員【平成30年3月31日現在】

職名	氏名	任期
教育長	中原 一博	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで 平成25年4月1日から平成29年3月31日まで 平成29年4月1日から平成32年3月31日まで
委員 (教育長職務代理者)	中村 和幸	平成29年10月5日から平成32年10月4日まで
委員	大金 隆子	平成27年4月1日から平成31年3月31日まで
委員	稲田 昌孝	平成28年4月1日から平成32年3月31日まで
委員	安西 仁人	平成29年4月1日から平成33年3月31日まで

2 教育委員会の活動状況について

定例会、臨時会など、平成29年度における本市教育委員会の主な活動状況は、次のとおりである。

年月日	出席委員数	件名
平成29年4月1日	5名	協議会 ・教育長職務代理者の指名 ・教育委員会事務局職員紹介 ・平成29年度市立小学校入学式の出席について
平成29年4月7日	5名	市内小学校入学式
平成29年4月27日	5名	定例会 ・常陸太田市奨学生選考審査委員の委嘱等について ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・平成29年度教育委員会主要事業の概要について ・スポーツチャレンジデー2017の開催について
平成29年5月25日	4名	定例会 ・常陸太田市立小中学校設置条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市立小中学校設置条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市立運動公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について

		<ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市社会教育委員の委嘱について ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・常陸太田市指定有形文化財の指定について ・常陸太田市指定有形文化財の解除について ・市教育委員会の行事等について
平成29年6月22日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市学齢児童生徒の就学すべき学校指定に関する規則の一部改正について ・常陸太田市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について ・常陸太田市障害児就学指導委員会委員の委嘱について ・常陸太田市公民館長の任命について ・平成29年第3回市議会定例会（6月定例会）一般質問要旨及び答弁要旨について ・市教育委員会の行事等について
平成29年7月18日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度使用小・中学校教科用図書採択について ・市教育委員会の行事等について
平成29年8月25日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について ・市教育委員会の行事等について
平成29年9月28日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年第4回市議会定例会（9月定例会）一般質問要旨及び答弁要旨について ・水府地区の認定こども園の設置について ・教育長職務代理者の指名について ・市教育委員会の行事等について
平成29年10月10日	5名	学校訪問（山田小、水府小、水府中、里美小中）
平成29年10月19日	5名	学校訪問（郡戸小、久米小、金砂郷小、金砂郷中）
平成29年10月26日	5名	学校訪問（久米幼稚園、金郷幼稚園、水府幼稚園、さとみこども園）

平成29年10月26日	5名	定例会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度教育振興大会概要について ・第18回西金砂登山マラソン大会の概要について ・平成29年度常陸太田市ジュニア競技能力向上事業ジュニア対象教室の取組について ・平成29年度市町村教育委員会研究協議会（第1ブロック）開催要項について ・市教育委員会の行事等について
平成29年11月22日	5名	定例会 <ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市認定こども園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について ・平成29年度常陸太田市一般会計補正予算（第5号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・常陸太田市就学援助実施要綱の一部改正について ・平成29年度（平成28年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について ・平成30年成人式開催計画について ・教育委員会行事等について
平成29年12月26日	5名	常陸太田市教育振興大会
平成29年12月26日	5名	定例会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年第5回市議会定例会（12月定例会）一般質問及び答弁要旨について ・市教育委員会の行事等について
平成30年1月7日	5名	平成30年成人式
平成30年1月16日	5名	第1回総合教育会議 <ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市の学校教育における現状と課題について
平成30年1月25日	5名	定例会 <ul style="list-style-type: none"> ・金砂郷中学校屋内運動場建築工事について ・平成29年度市立中学校卒業式の出席について ・水府小学校・山田小学校の閉校記念式典の開催について ・第11回常陸太田市ロードレース・親子ふれあい大会の開催について ・市教育委員会の行事等について
平成30年2月22日	5名	定例会 <ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市教育委員会職員の職名規則の一部改正

		<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> 常陸太田市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 常陸太田市教育委員会事務決裁規程の一部改正について 常陸太田市教育委員会事務局処務規程の一部改正について 常陸太田市学校防災推進委員会設置要綱の一部改正について 常陸太田市立幼稚園通園バス利用要綱の一部改正について 平成29年度常陸太田市一般会計補正予算（第7号）案（教育費関係）の編成に対する意見について 平成30年度常陸太田市一般会計予算案（教育費関係）の編成に対する意見について 水府小・中学校一貫教育学校開校記念式典の開催について 教育委員会委員の行事予定について
平成30年3月13日	5名	市内中学校卒業式
平成30年3月13日	5名	<p>臨時会</p> <ul style="list-style-type: none"> 常陸太田市西山研修所の設置及び管理に関する条例を一部改正する条例の意見について 常陸太田市教育委員会教育長の退任について
平成30年3月16日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> 県費負担教職員の任免等の内申について 常陸太田市子ども読書活動推進計画の策定について
平成30年3月30日	5名	<p>臨時会</p> <ul style="list-style-type: none"> 常陸太田市教育委員会職員の職名規則の一部改正について 常陸太田市西山研修所の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について 常陸太田市スポーツ大会出場補助金交付要綱の一部改正について 学校医の委嘱について 学校薬剤師の委嘱について 常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について

		<ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市公民館主事の任命について ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の任免について ・平成30年度常陸太田市一般会計補正予算（第1号）案（教育費関係）の編成に対する意見の専決について ・平成30年第1回市議会定例会(3月定例会)一般質問及び答弁要旨について ・市教育委員会の行事等について
<p>平成29年度 教育委員会の会議開催状況</p> <p>1 開催回数 15回（定例会12回、臨時会2回、協議会1回）</p> <p>2 議案件数 39件</p> <p>3 報告件数 0件</p> <p>4 選挙件数 0件</p>		

平成 30 年度（平成 29 年度事業）
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書

平成 30 年 11 月
常陸太田市教育委員会